



縁起物の飾りが並んだ八日市つるし雛まつり

春の訪れ告げるつるし雛

八日市つるし雛まつり(八日市つるし雛同好会主催)が2月14日から3月3日まで、八日市いきいき交流館で開かれました。ことしで9回目の開催となる恒例行事には、県内外から大勢の家族連れなどが来場。手作りのぬくもりを感じながら作品に見入る人や、色とりどりのつるし雛を背に記念写真を撮る人など、思い思いにその魅力を味わっていました。華やいだ雰囲気にもまれた同まつり。多くの来場者に、一足早い春の訪れを感じさせました。



石鳥谷賢治の会が主催した「賢治三月祭」で精神歌を歌う参加者の皆さん

作品を通して賢治をしのぶ

「賢治三月祭」が3月5日、宮沢賢治が石鳥谷で行った肥料相談の様子を書いた詩「三月」の碑がある道の駅石鳥谷で行われました。参加した皆さんは、同詩を群読したほか、精神歌を歌うなど、賢治をしのびました。同祭に続いて、石鳥谷図書館で開催された賢治の世界セミナー「賢治と青ノ木森」では、文教大学教授の鈴木健司さんが講演。石鳥谷が舞台となっている賢治の童話「青木大学の野宿」に登場する鉱物を中心とした内容に、受講者の皆さんは熱心に聴き入っていました。



森島寛晃さん(中央)とミニゲームを楽しむ参加児童

憧れの選手のプレーに学ぶ

トップアスリートとの交流イベント「スポーツの力で岩手を元気に！」が2月23日、市民体育館で開かれました。2年後に開催される希望郷いわて国体希望郷いわて大会の機運を盛り上げようと、同大会実行委員会が主催。県内のスポーツ少年団の児童約40人が参加し、元サッカー日本代表の森島寛晃さんからドリブルやトラップなどの基礎を教わりました。湯本サッカー少年団の伊藤郁優さん(6年)は、「説明が分かりやすく、楽しく練習ができた」と充実した表情で話していました。



それぞれの役に成り切り好演する出演者の皆さん。せりふ一つ一つの意味を大切にしながら演じ、舞台終了後には充実の笑顔を見せていました



手づくりの舞台で観客を魅了-第38回花巻市民劇場

郷土の文化や歴史を題材にした市民による手づくりの舞台「花巻市民劇場」は2月22日と23日の両日、文化会館で上演されました。「昭和に輝き平成を歩む花巻のおんな達」と題した今回の公演は、女学校時代を一緒に過ごした3人の女性たちの戦中戦後から現在にかけての人生を描いた物語。時代ごとの話題や流行、子育てや介護など身近な問題を盛り込んだ内容に、共感しうなずく観客の姿も多く見られました。また、時折展開されるユーモアあふれるシーンは、会場の笑いを誘いました。出演した皆さんは、「日ごろの稽古の成果を発揮し素晴らしい演技を披露。観客を物語の世界に引き込んでいました。」

2日間の公演には約750人が来場。人々との関わり合いや、地域の絆の大切さをあらためて実感させてくれる舞台に、会場から惜しめない拍手が送られていました。



拍子木を打ち鳴らしながら行進する園児の皆さん。大きな声で防火を呼び掛けました

「火の用心」を元気に呼び掛け

春季全国火災予防運動の期間に合わせて、石鳥谷善隣館保育園の幼年消防クラブによる防火パレードが3月5日、同園で行われました。石鳥谷町内をパレードする予定でしたが、天候が悪かったことなどから同園内での実施となったものです。園児39人は、拍子木やポンポンを手に持ち、外まで届くような大きな声で「戸締り用心火の用心」と歌いながらホールを行進。また、全国統一防火標語の「消すまでは心の警報ONのまま」を元気に唱え、「火の用心」を心に誓いました。